

第五十八日目

師 範：王政復古はできたけれど、藩や大名はそのままでした。
年貢やいろいろな税が中央の政府に集中するしくみをつくらねばなりません。
どうしても政府は、藩を廃止してしまわなければなりません。
しかし簡単に大名たちは特権や財産を手放すでしょうか。
薩摩藩や長州藩や土佐藩や肥前藩の人たちは、東京に武士を集めて護衛しながら、全国の大名を集めて、廃藩置県の命令を出しました。
後日、伊藤博文はアメリカで演説した時に、「日本では封建制度をなくす改革に、一滴の血も流さなかった」と誇っています。



1871年 新政府が廃藩置県をおこなう。

この年を覚えましょう。

コン太：では



「もう藩とは言わない」

「い」は1、「わ=は」は8、「な」は7、「い」は1です。
すこし長くすると

「県を置き もう藩とは言わないよ」

師 範：みごと。

コン太君，でかしたぞ。この短さと内容のみごとな一致。



みごと

師 範：プロシアは力をつけて、小さな国々を統一してドイツ帝国になりました。
その年が同じ1871年です。
ですから、その言い方を利用してみてください。

ペン太：では、わたくしが

「ドイツはプロシアとは言わない」